

科目ナンバリング		U-LAS00 20005 LJ34							
授業科目名 <英訳>	認識人間学 I Epistemological Human Studies I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 青山 拓央				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	哲学・思想(各論)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・前期		曜時限	火4		配当学年	全回生	対象学生	全学向
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
<b>[授業の概要・目的]</b>									
世界の事物を認識するうえで、言語はきわめて大切な道具です。ある意味では、私たちは言語を通して初めて、世界を「見る」ことが可能になります。本講義では言語と認識との関係について、おもに分析哲学のさまざまな知見を解説する予定です(必要に応じて、論理学の入門的なお話しもします)。『分析哲学講義』(ちくま新書)を参考書として講義を進めつつ、同書に記されていない多様な研究成果も、随時紹介していく予定です。									
<b>[到達目標]</b>									
分析哲学の基礎的な知識を得るとともに、言語と認識との関係について、さまざまな観点から理解を深める。									
<b>[授業計画と内容]</b>									
下記のテーマに沿って、言語と認識との関係を考えます(授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります)。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・分析哲学とは何か(第1週～第2週)</li> <li>2. 言語の「意味」の客観性(第3週～第5週)</li> <li>3. 名前と述語の機能について(第6週～第8週)</li> <li>4. 文脈原理と全体論(第9週～第11週)</li> <li>5. 可能世界と形而上学(第12週～第14週)</li> </ol>									
第15回: フィードバック									
<b>[履修要件]</b>									
特になし									
<b>[成績評価の方法・観点]</b>									
レポートにて成績を評価します。採点基準はやや厳しめで、講義内容を十分に理解しているかと、自分の考えを論理的に説明しているかを中心的に評価します。									
<b>[教科書]</b>									
使用しない									
<b>[参考書等]</b>									
(参考書) 青山拓央 『分析哲学講義』(筑摩書房) ISBN:9784480066466									
----- 認識人間学 I (2)へ続く -----									

認識人間学Ⅰ(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。

[その他(オフィスアワー等)]

教室収容人数に応じて、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。

[主要授業科目(学部・学科名)]